

ネット利用に関するアンケート調査・結果

保護者対象



- 1 実施主体 富士河口湖町立教育センター・南都留郡学校運営研究会
- 2 実施対象 富士河口湖町・西桂町・鳴沢村・山中湖村・忍野村・道志村
の小中学生の保護者

回答数

小学校5年生	417名	小学校6年生	484名		
中学校1年生	397名	中学校2年生	413名	中学校3年生	372名

計2083名

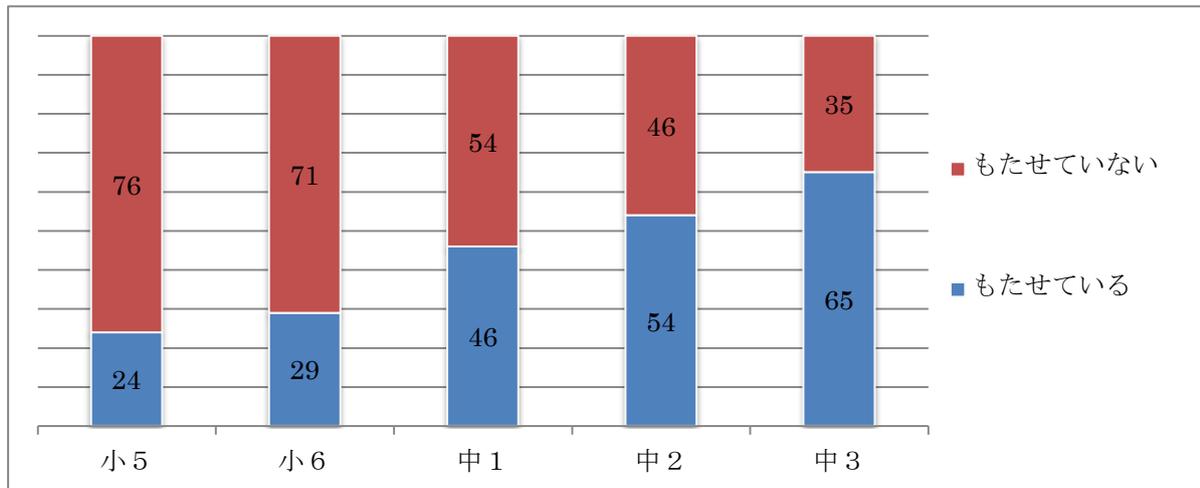
- 3 実施時期 平成27年7月

調査の概要

- 1 スマホ・携帯の所持率が一気に半数に上がるのは中学校入学。持っている子の割合が持っていない子の割合を上回るのは、中学2年生である。
- 2 一方で35パーセントの家庭は中学校以下でスマホ・携帯を持たせない。
- 3 現在所持している児童生徒が、持ち始めた時期はさまざまで特別な傾向はない。しかし、持たせている家庭の理由は共通している。それはいつでも連絡が取れ安心できるというもの。
- 4 現在所持している児童生徒の保護者の8割が、スマホ・携帯にフィルタリングをかけている。
- 5 小学生で6割以上、中学生で8割以上の生徒がインターネットを利用している。使用機器は携帯ゲーム機やスマホ、パソコンである。タブレット端末も急速に普及してきている。
- 6 児童生徒がインターネットを使用する目的で多いのは「インターネットでの調べ活動」「YouTubeなどの動画・音楽配信サービス」「オンラインゲーム」そして「ライン」である。
- 7 平日のインターネットの利用時間でみると、「1時間未満」や「1～2時間未満」といった比較的短時間での利用者が多い。ただし自分の部屋などでの様子は親にはつかみきれないことから、実際の利用時間を正しく反映しているかどうかは今回の結果からは把握しきれないと考える。
その中でも、中学生の約1割は平日でも3時間以上利用しているというデータがでた。これらについては学習や生活リズムへの悪影響、さらにはネット依存症が心配される。
- 8 休日のインターネットの利用時間になると、3時間以上の利用が小学生でも全体の1割、中学生では同じく2割以上と増加する。
- 9 インターネット使用時のルールやマナーを決めている家庭では、時間や場所、使ってよいサイトについて等複数のきまりごとがあるが、ルールやマナーを作らずに持たせている家庭が1割以上（約13%）にのぼる。
- 10 スマホ・携帯のトラブルには、小学生より中学生のほうが巻き込まれる割合が高い。その多くはチェーンメール、迷惑メール、悪口の書き込みなど、対人関係に関することである。
- 11 スマホ・携帯を持たせる上で保護者が心配しているのは多い順から「学習のさまたげ」「トラブルに巻き込まれる」「ネット依存になる」「就寝時刻が遅くなる」「利用料金」である。これらは、保護者がスマホ・携帯を持たせない理由と重なる。
- 12 スマホ・携帯の問題に対する取り組みについて、「有害サイトへの規制強化」「家庭でのルール設定」「フィルタリングの徹底」が有効だと考える家庭が多い。

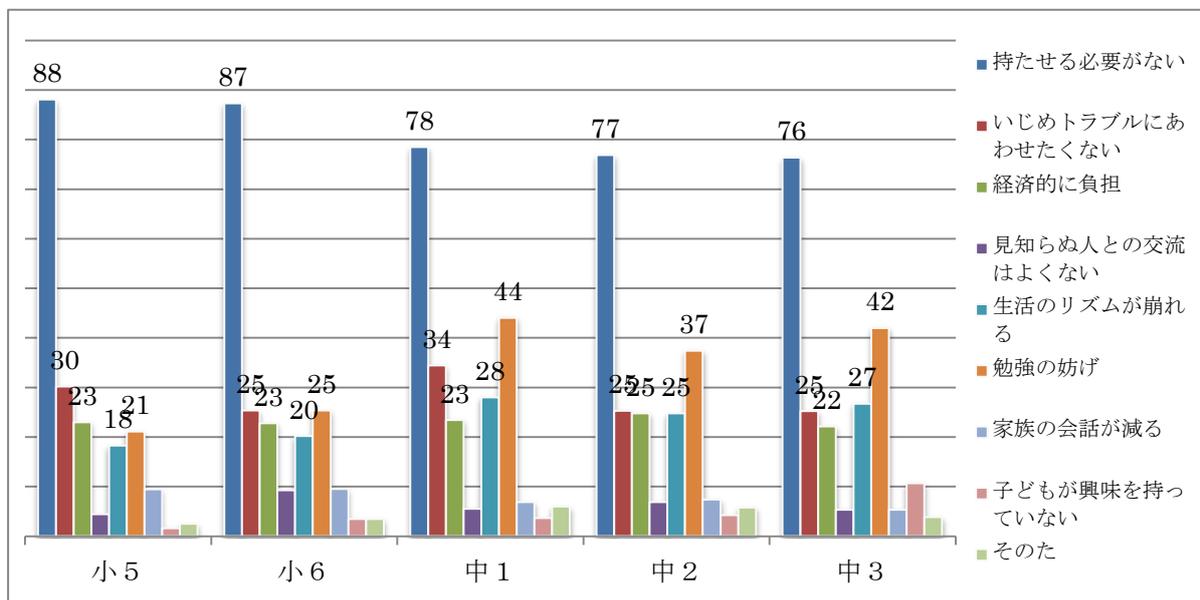
問1 あなたはお子様にスマホ・ケータイを持たせていますか。

(数字⇒%)



■ ○スマホ・ケータイの所持率は学年が上がるにつれ増えている。特に中1で所持率が急増していることから、中学入学を機に買い与える家庭が多いと考えられる。男女別に見ると、中学3年生の女子の所持率が最も高く68.6%となっている。ちなみに、所持率が一番低いのは小学校5年生の男子の20.7%である。また、女子の方が所持する割合が高い。

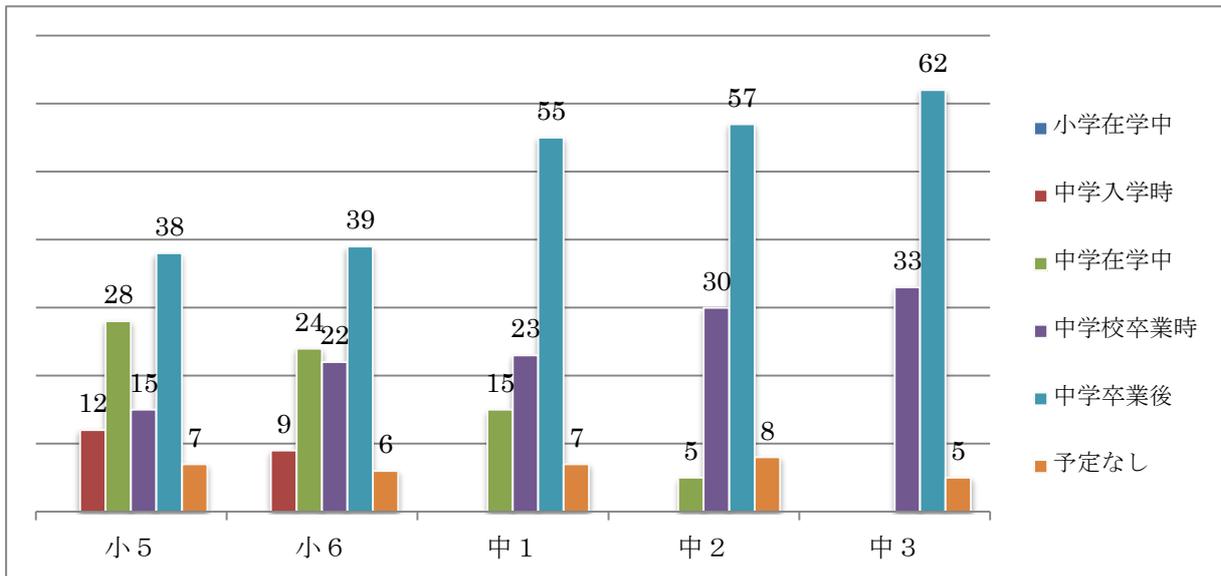
問2 スマホ・ケータイを持たせない理由は何ですか。(数字→持たせていない家庭全体に対する%)



■ ○問1の結果から、小学校5年生で76パーセント、中学3年生で35パーセントの家庭が子供にスマホ・ケータイを持たせていないことがわかる。その理由として圧倒的に多いのが「持たせる必要がない」というもので、小学校では、持たせていない家庭の9割近くが、中学校でも8割近くがそう回答している。次に多いのが、「勉強の妨げになる」。小学校の20%台に対し中学校では40%以上が学習への影響を心配している。さらに、「いじめやトラブルにあわせたくない」「経済的に負担」「生活のリズムが崩れる」と続いているが、これらは小中で大きな開きはない。

問3 将来スマホ・ケータイを持たせるとしたらいつが適当と思いますか。

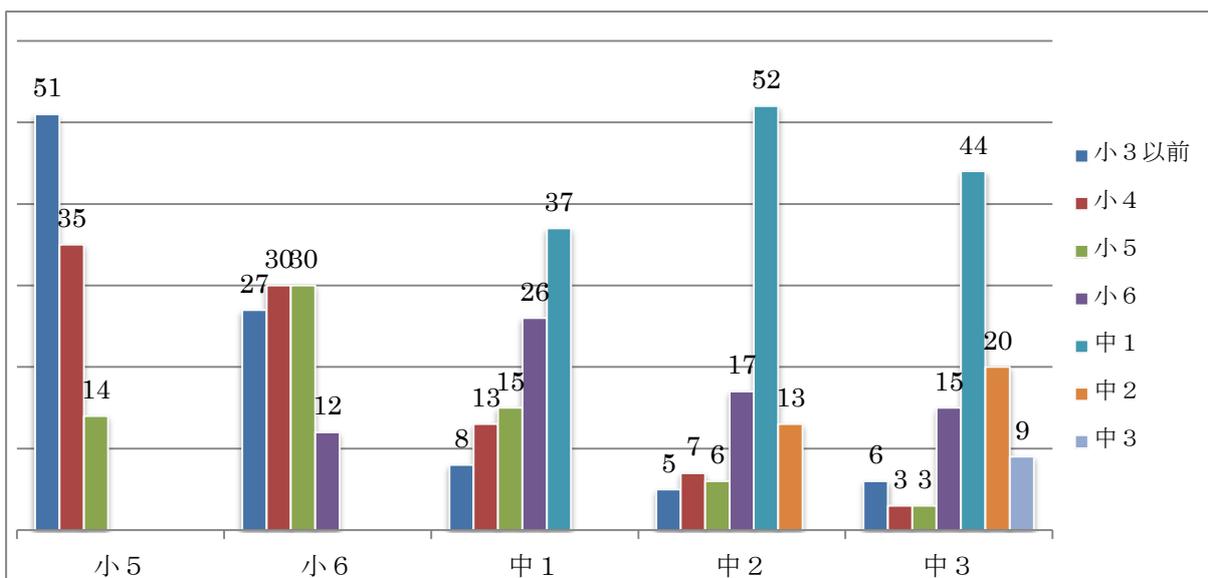
(数字→持たせていない家庭全体に対する%)



- ○持たせていない家庭では「中学校卒業後」つまり、高校入学時に持たせるのが適当と考えている数が、どの学年でも最も多くなっている（平均 50%）。しかし、2番目に多い回答を見ると、小学校では「中学在学中」（26%）中学校では「中学卒業時」（28%）となっており、小中で若干の違いがでている。
- すべての学年で「小学校在学中」はなく、中学校では「中学入学時」もなし。

問4 スマホ・ケータイを持たせたのは何年生の時ですか。

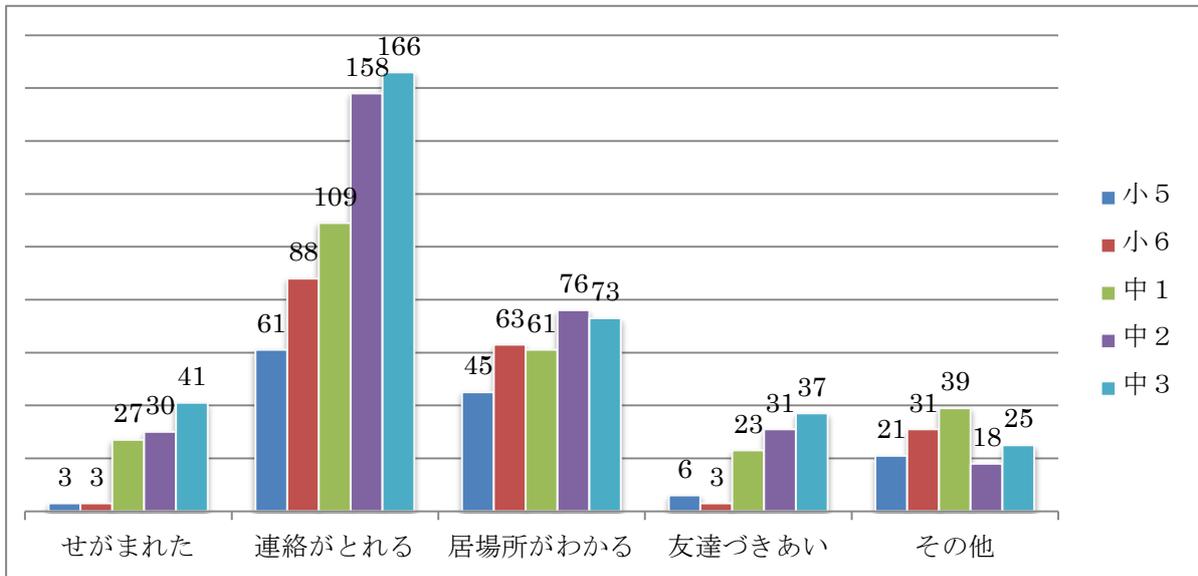
(数字⇒%)



- ○持たせたのが一番多いのは次の通り。・小5→小3以前（51%）・小6→小4（30%・小4以前とすると57%）・中学校では中1の時が最も多く（平均44%）、続いて小6（平均19%）となっている。

問5 スマホ・ケータイを持たせた理由は。

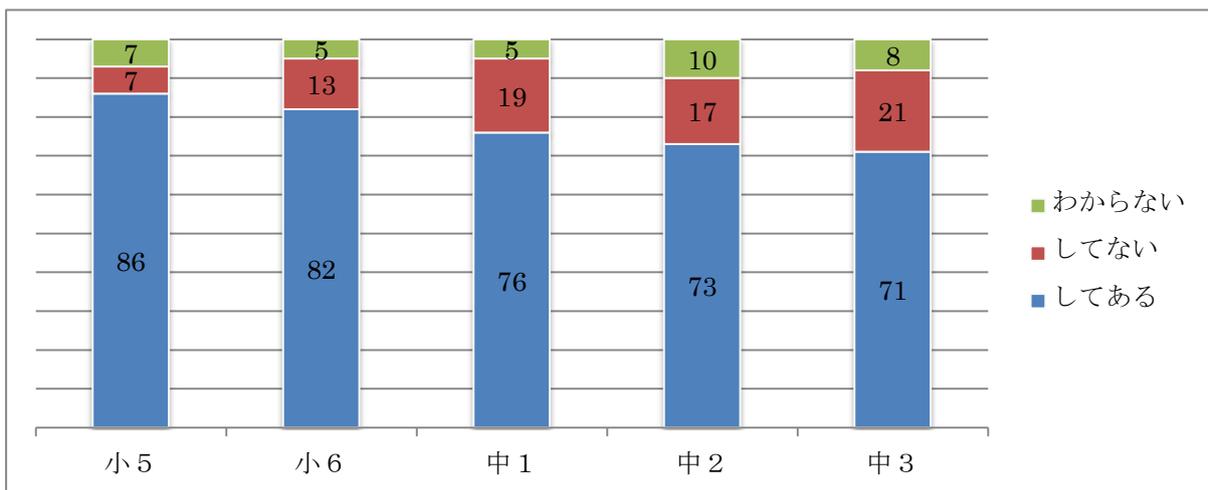
(数字→回答数)



- 全学年を通し、持たせた理由として最も多いのが「家族間でいつでも連絡がとれる」で全回答数の47%。次に多いのが「居場所などがわかり安心できる」(26%)となっていて、安全安心を優先していることがわかる。また、割合に学年で大きな差はない。それに比べ、小学校に対し、中学校の割合が多いのが、「子どもにせがまれた」「友達とのつきあいに必要」の二つ。友達関係を作るのに必要なツールとしてスマホ・ケータイを必要としている中学生の姿が見られる。

問6 フィルタリング（アクセス制限）を設定していますか。

(数字⇒%)

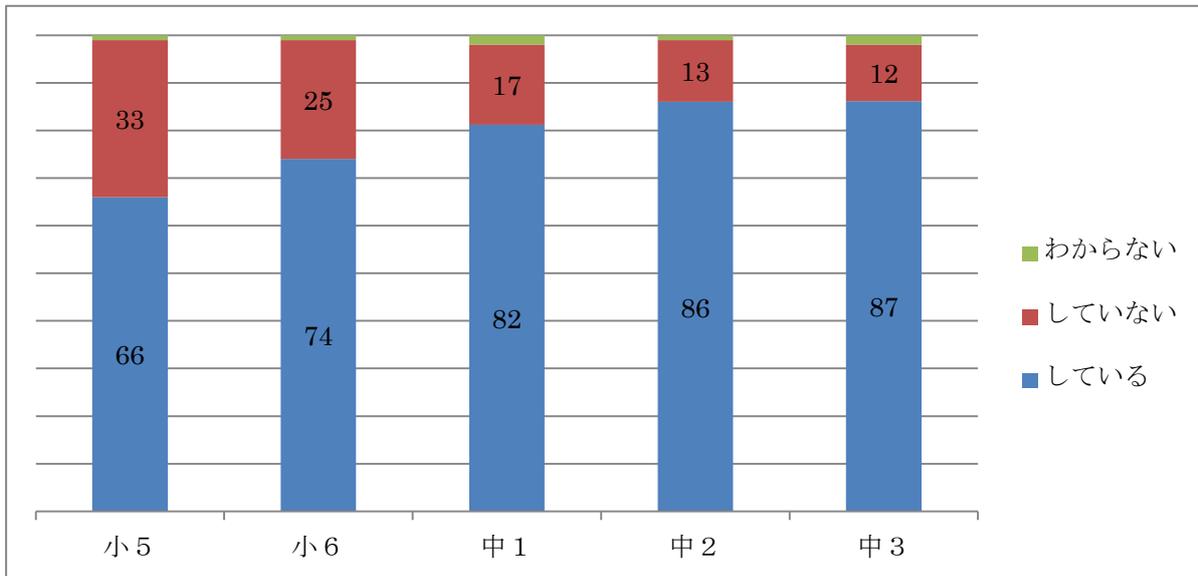


- 小学校では8割以上の家庭が、中学校では7割以上の家庭がフィルタリングを設定していると回答した。しかし、反対に考えると、これだけスマホ・ケータイの危険性が叫ばれている中で、2割近い家庭でフィルタリングの設定がされていない現状があることに目を向ける必要がある。

○昨年の児童生徒アンケートでは「わからない」が半数くらいあった。保護者との意識の違いを感じる。

問7 お子様はインターネット通信を行っていますか。

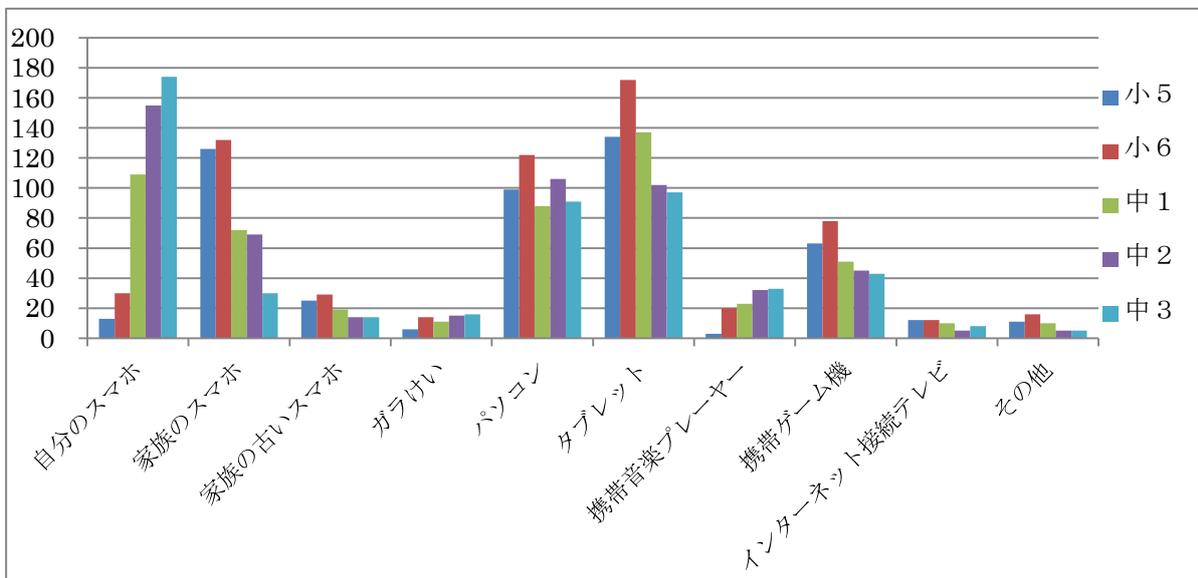
(数字⇒%)



- 学年が上がるにつれインターネットの利用率は増えている。小5で7割近くが、中3では9割近くが利用している。ちなみにこの数字は、昨年実施した児童生徒アンケートの割合とほぼ同じで、そのことから保護者が子供の実態をある程度把握していることがわかる。

問8 お子様はどの機器でネット通信を行っていますか。

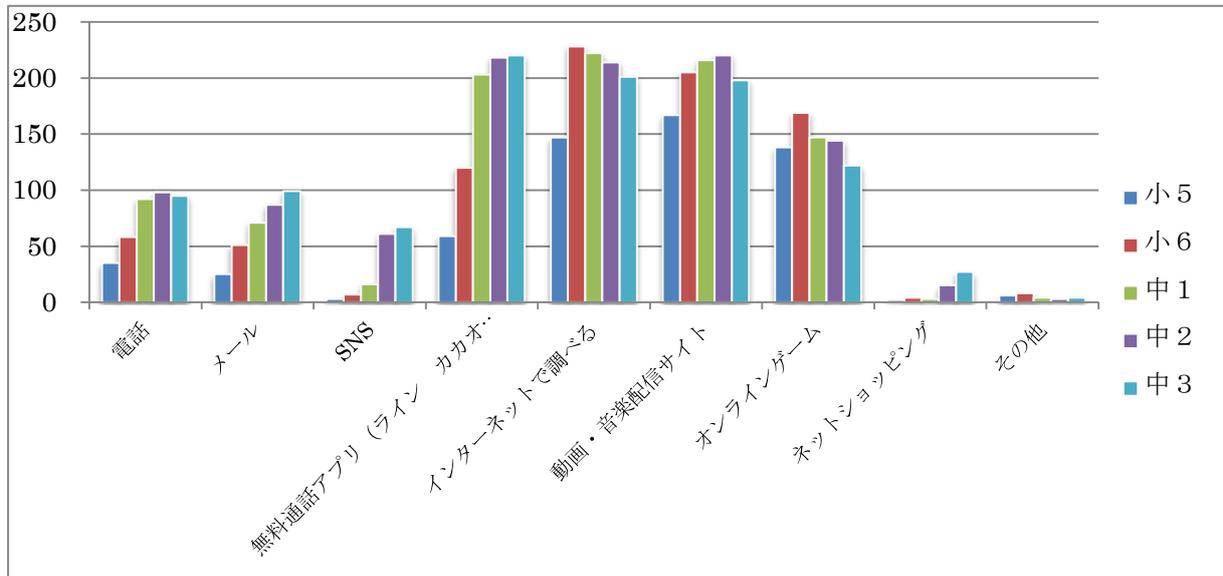
(縦軸の数字は回答数)



- 昨年の児童生徒アンケートによるとネット通信に利用する機器を多い順に並べると、小学生では「①携帯ゲーム機②スマホ③パソコン④タブレット」中学生では「①スマホ②パソコン③タブレット④携帯ゲーム機」となっている。今回のアンケートを見ると、小中ともに一番多いのは「スマホ」(小学生に多いのは家族のスマホ、中学生では自分のスマホ) 次に「タブレット」、そして「パソコン」となっている。わずか1年の間に「タブレット」がかなり普及してきていることがわかる

問9 お子様は機器をおもに何に利用していますか。

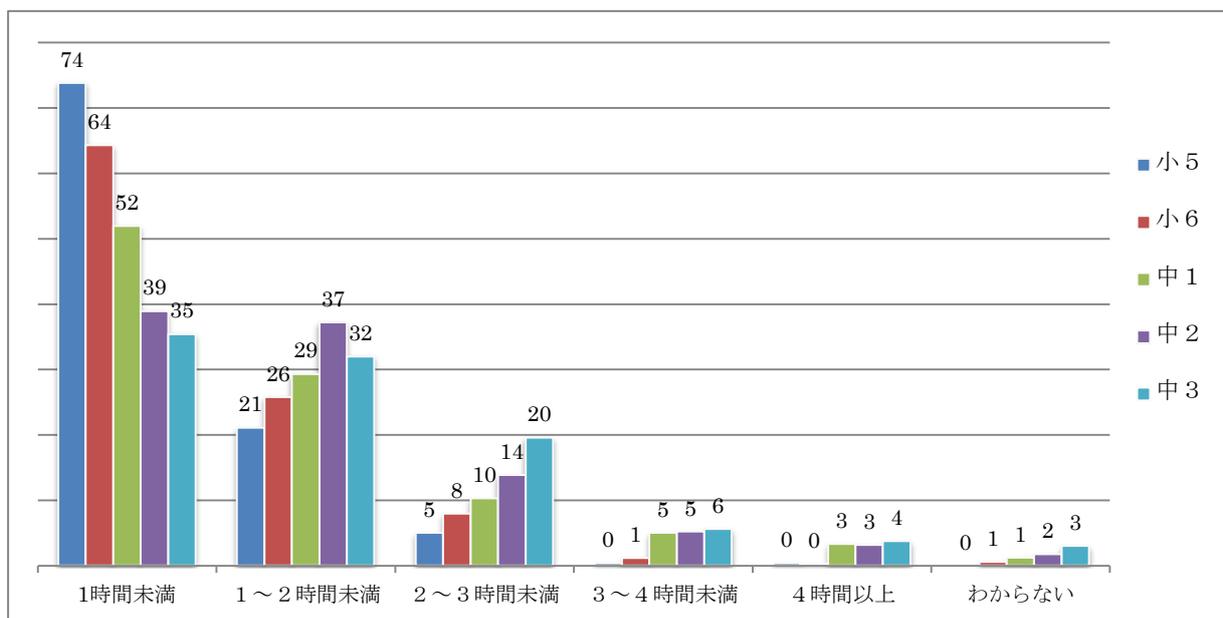
(縦軸の数字は回答数)



- 小中ともに多いのが「インターネットで調べる」「動画音楽配信サイト」「オンラインゲーム」。メールやラインの利用率は学年が上がるにつれ増えている。人間関係が広がっていることを示している。
- 昨年の児童生徒アンケートと比べ気になるのが、ネットショッピングの数、今回、子どもがネットショッピングに機器を利用していると答えた数は総数で51件。昨年のアンケートでは中3を対象にしていなくてもかわらず、ネットショッピングを利用したことがあると答えた児童生徒が147名いた。年度が違うとはいえ、保護者の把握と児童生徒の回答に大きな開きがあることが気になる。プリペイドカードを利用するなど簡単にネットショッピングができる状況があり、実態をしっかりと把握する必要がある。

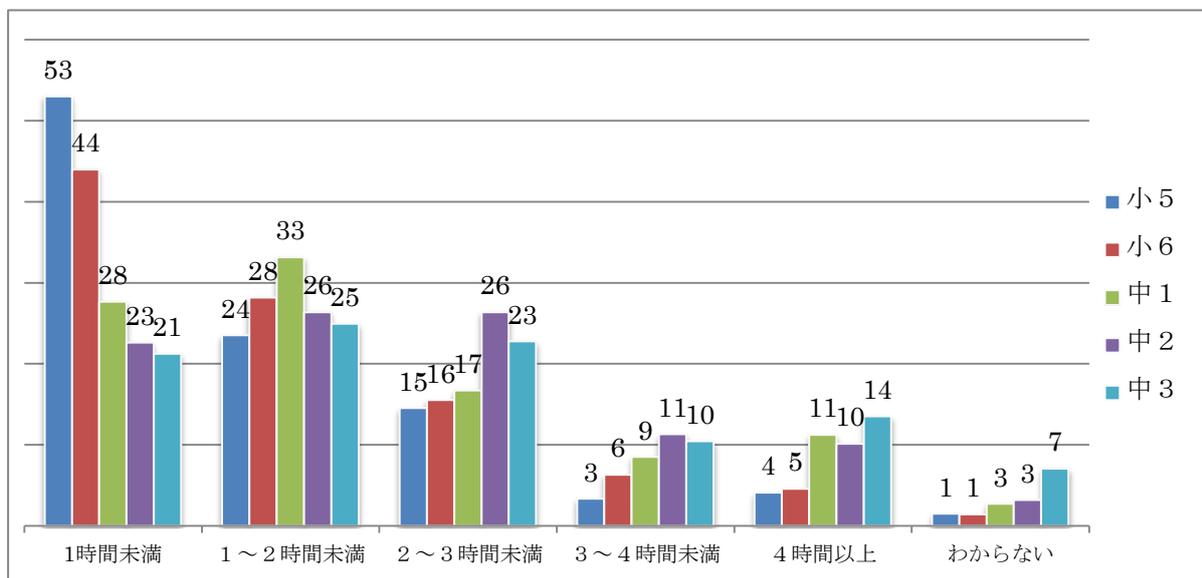
問10 お子様は平日1日どれくらいネット通信を行っていますか。

(数字は%)



- ○1時間未満の利用は小5で74%、小6で64%、中1で52%、中2で39%、中3で35%となっている。
- 1時間以上の利用は小5で26%、小6で35%、中1で47%、中2で59%、中3で62%となっている。
- 中学生の8%~10%が平日3時間以上利用しているとなっている。
- 平日に3時間以上利用しているということは家庭学習もおろそかになっていることであろう。昨年度の学力学習状況調査の結果からも、スマホの利用時間の長い児童生徒の点数がそうでない児童生徒の比べ低いことが報告されている。
- 昨年の児童生徒アンケートと比較して1時間以上の利用時間に関しては、10ポイント~20ポイント低い数値になっている。自分の部屋で行うなど、特に中学生では保護者が把握しきれない部分があることが予想される。

問 11 お子様は休日1日どれくらいネット通信を行っていますか。 (数字は%)

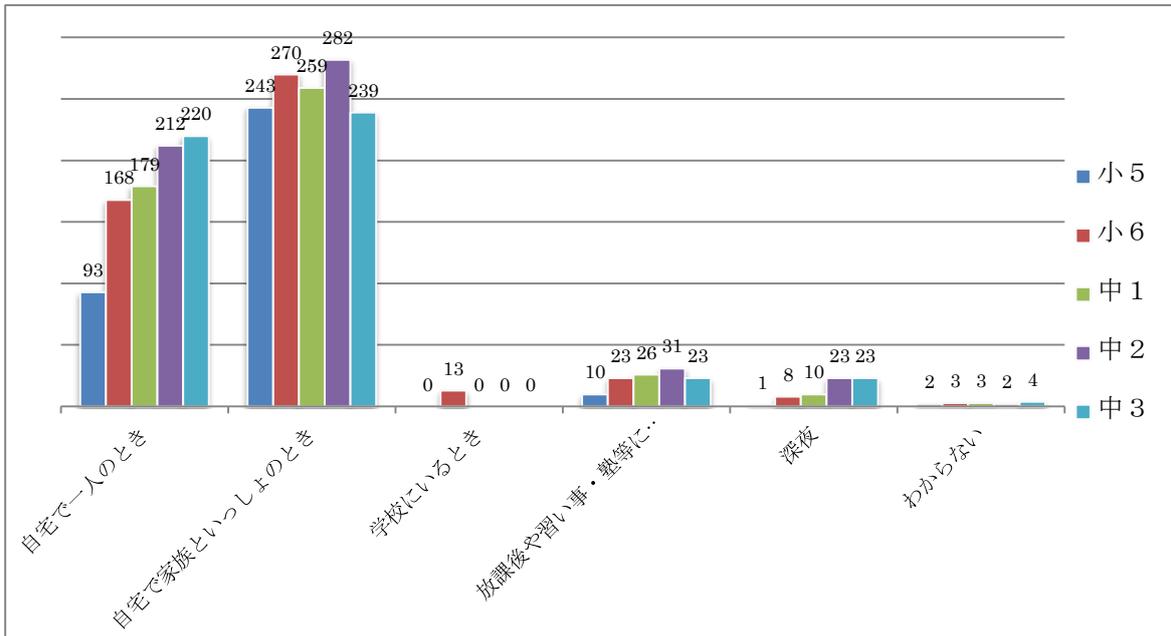


- ○休日に3時間以上利用している割合は、小学生で約10%（児童生徒アンケートによると約15%）、中学生に至っては、全学年で20%（児童生徒アンケートによると約35%）を超える生徒が利用している。
- 全体的に見ると、平日に比べ、1時間未満の児童生徒の割合が減少し、2時間以上の児童生徒の割合が増加している。



問 12 お子様はいつどんな場面で機器を使うことが多いですか。

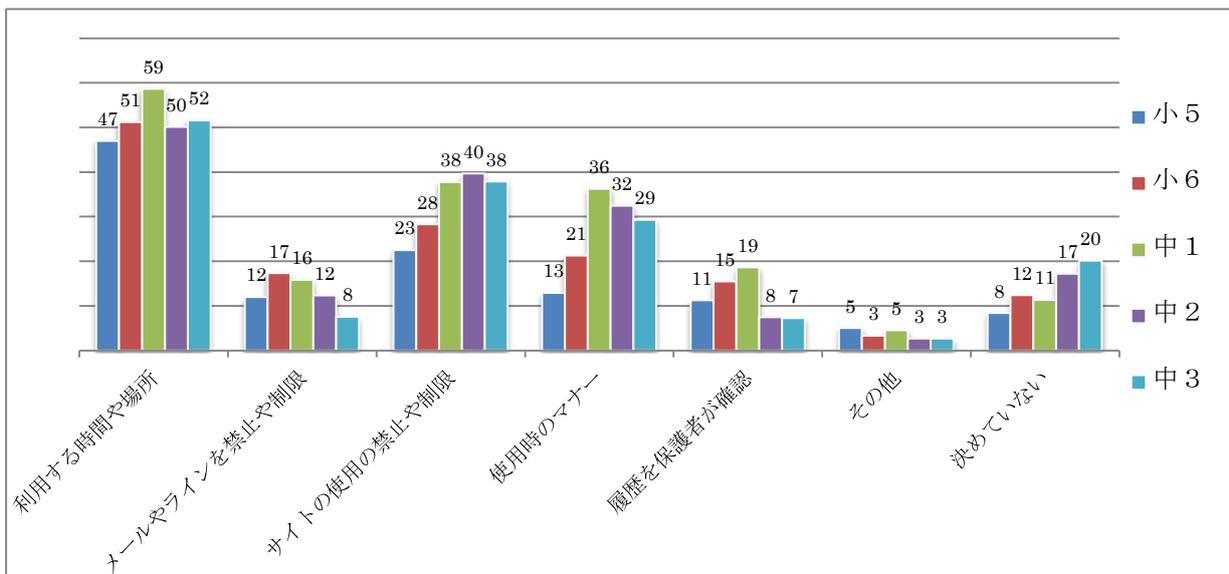
(数字→回答数)



- ○全体的に昨年度の児童生徒アンケートの結果と同様の結果になっている。
- 全学年で自宅での使用が圧倒的に多いが、学年が上がるにつれ、自宅で一人の時に使う割合が増えている。
- 小6だけに「学校にいるとき」と答えた家庭がある。(他の学年はなし)

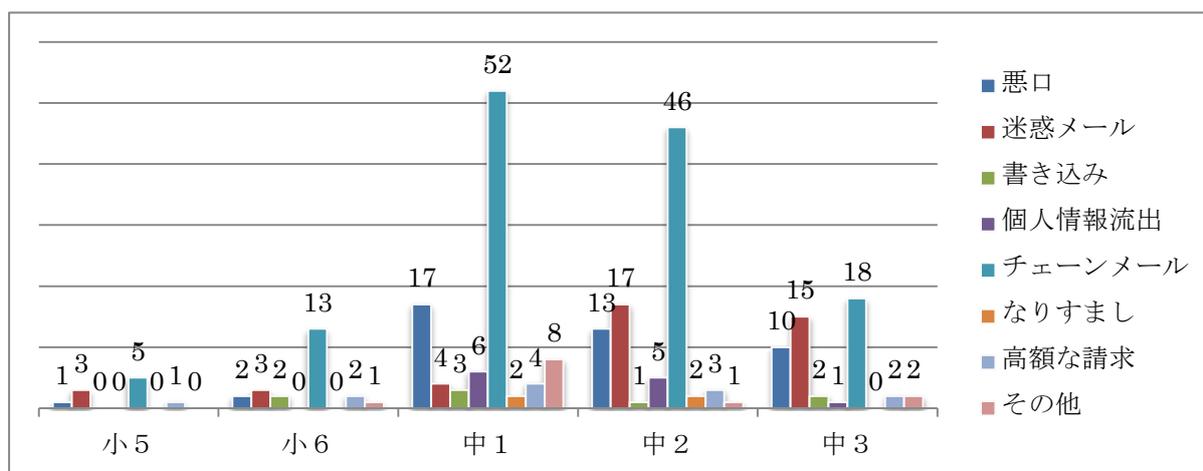
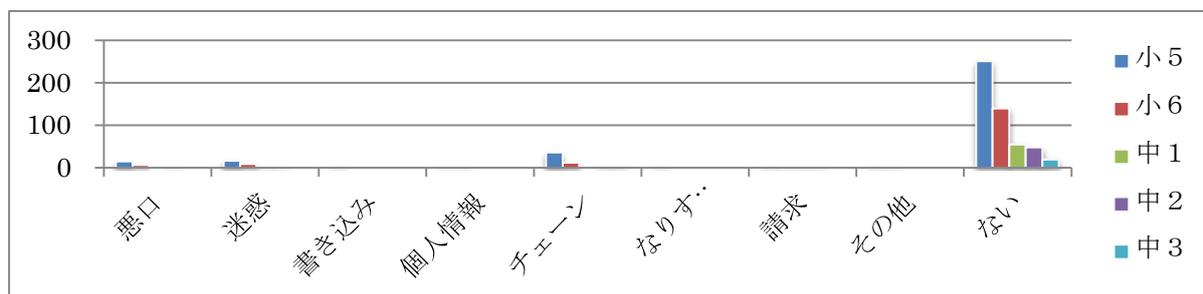
問 13 機器使用のルールはありますか。

(数字は%)



- ○利用する時間や場所の関するルールが最も多い。次にサイトの禁止や制限、使用時のマナーの順。
- 特に決めていない割合を学年ごとに見ると、小5→8%、小6→12%、中1→11%、中2→17%、中3→20%となっている。決めていない家庭では複数のルールを決めているが、ルールを決めない家庭が、かなりあることがわかる。

問 14 お子様はこの1年、トラブルに巻き込まれたことがありますか。(数字→回答数)



- 「ない」という回答が圧倒的に多かったが、(トラブルを具体的に見ると)
- 小学生に比べ中学生の方がトラブルに巻き込まれる割合が高い。
- チェーンメール、迷惑メール、悪口の割合が高い。特にチェーンメールや悪口は中学に入り突然増えている。

問 15 スマホ・ケータイを持たせる上で心配な点はどのようなことですか。(数字→回答数)

	小5	小6	中1	中2	中3
利用料金	193	200	134	150	122
勉強の妨げ	249	304	288	287	252
交友関係が分からない	160	167	139	104	100
就寝時間が遅くなる	180	201	175	170	173
メールなどで嫌がらせをうける	138	174	103	98	84
トラブルにまきこまれる	244	291	217	212	174
家族との会話が少なくなる	103	126	91	78	90
対面でふれあう経験が不足する	80	85	71	62	60
現実と非現実の区別がつかなくなる	45	52	42	32	33
ネット依存	227	249	169	188	159
その他	7	9	19	3	6
ない	19	30	24	23	28

- ○保護者の心配点を多い方から並べると、①勉強の妨げ、②トラブルに巻き込まれる、③ネット依存になる、④就寝時間が遅くなる、⑤利用料金の順になる。そしてこれは、保護者が子供にスマホ・ケータイを持たせない理由とも一致している。
- 小学生では、①と②は同じくらいの数になっているが、中学生の場合、スマホ・ケータイが学習へ与える影響について心配する数が多くなっている。

問 16 スマホ・ケータイの問題に今後どのような取り組みが有効だと思いますか。(数字→回答数)

	小5	小6	中1	中2	中3
フィルタリング使用を徹底	226	235	195	200	173
販売時に事業者がきちんと説明すること	95	106	101	82	74
有害サイトへの規制を強化	218	263	206	215	190
製造、販売業者への規制を強化	23	31	33	29	16
行政による有害情報対策の普及・啓蒙	41	44	47	34	25
スマホ・ケータイを持たせない	89	105	97	71	63
保護者が学ぶ機会を設ける	57	62	61	50	39
子どもが学校で学ぶ機会を設ける	140	163	123	131	110
情報モラルを教育するための教材の充実	51	54	47	28	42
家庭でのルールの設定	213	252	195	220	190
その他	8	8	9	7	9

- ○①有害サイトへの規制の強化②家庭でのルールの設定③フィルタリングの徹底を有効だと考える意見が多い。
- 親子ともに学習の機会を設けることの有効性も挙げられている。

● 今困っていることがありますか。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやラインをしていて、宿題をする時間が遅くなる。 ・便利なのでパソコンで調べてしまい、自分で考えることをしなくなっていると思う。 ・周りが持ち始めるとつきあいで持っていない仲間はずれにされてしまう。(ゲームもそうだったので)親としては持たせたくないのが本音だが、本人がいやな思いをするのは悲しいので、これから悩むことになると思います。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲が持つとスマホでも何でも持ちたがる。いじめやトラブルの原因になるので心配である。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で禁止しますという校則を作ってもらえると、子どもが友達に誘われても断る理由にできるので、校則の一つにスマホ、ライン、メールは許可のない児童生徒は禁止してほしい。 ・友達が持っているから持ちたいと言われている。子どもにそう言われると親の子どもの頃とは違い、持っていないければ仲良くなれないのかと考えさせられます。それぞれの家庭の事情はあると思いますが、もし持たせるならばガラケーや必要最低限なものにしたい。 ・現在困ってはいないが、友達同士ラインができる状態となった場合、既読後の即返信というルールができてしまうことに不安を持っている。子どもたちでもきちんと学ぶべき内容だと思う。今は、ラインは家族を含む身内のみの設定となっている為トラブルはないが。 ・兄妹でタブレットの取り合いで喧嘩になってしまいます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンで子ども用のフィルタリングをかけると、目的のゲームができなくて解除することになる(大人向けのゲームをしたいので)。 ・フィルタリングの設定を見直してほしい。

5年	時間が決まっているクエストなどがあると、家族との時間が制限されてしまうことがあったが、話し合いをして家族との時間を最優先にするというルールを守ってもらうことにした。以前、夜かくれてゲームをしていたことがあったので、「禁止」するよりも4～5年生で使うようになる子が多いと思うので、適切な使い方を指導していただければうれしい。
5年	中学生になると少しずつ持たせる人が増えてくると思うが、子どもたちの心の成長(特に対人関係)のために、全員で持たせない勇気を持ちたい。体を使って遊ぶことから、たくさんのがが学べるので、息子とたちがゲームで遊んでいるのを見ているとさみしい。
5年	パソコンで、少し前にイスラム国関係のものを見ていて注意した。
5年	タブレットを持っていますが、家族だけしかだめと決めている。
5年	父親が子どもにゲームと一緒にやらせている。
5年	YOU TUBEばかり見ている。
5年	家にきまりがないので、使い放題で困っています。
5年	電話して友人をゲームに誘っていたことがあった。
5年	家庭が子どもにきちんと理解させ、使用させない。使用させるなら、きちんとした体制で利用させるが良いと思う。
5年	ゲームをやらないことを約束しても守れない。
5年	親より子どもの方が詳しい
5年	主にYOU TUBEを見ているのですが、暴力シーンやぐろいシーンを見せたくない。
6年	親世代が子どもの頃になかったものなので、詳しい使い方などを親がついて行けない。今の世の中では必要になってきたりする物なので、絶対ダメとも言えない。ルールやモラルがとても重要になってくると思うので、そこは親としてきちんと伝えていきたい。
6年	色々制限をかけようとしても限りがあること。すでに依存しているところが気になる。
6年	どんな動画を見ているか心配である。
6年	親の携帯を使用しゲームをしている。時間を守れなくなってきている。
6年	・他の子(友達)がタブレット等を持ち歩いているのを見て欲しがらる様になった。放課後や休日、遊びに出る時など学校への持ち込みは禁止にしてもらいたい。
6年	パソコンでインターネットが自由に見られる状態になっているので、時間を決めても留守をしている間中、見てしまう。
6年	・良い事も沢山ありますが、私の知らない情報や、子供や私達親が知らないあ(わからない)事にまきこまれたら心配です。けど、ケータイはとても便利で困ります。・スマホは持たせるつもりはないのですが、周りの子供が持っている、(歳があがるにつれて持っている確率が高くなるのは現実)友達とのつきあい方に影響がでてくると思うので、どう対応したら良いか。・音楽プレーヤーとゲーム機に依存ぎみ。・動画を見る事が多い。DSでネットを利用して何をやってるのかわからない。
6年	オンラインゲームで負けたときに、イライラする。できればwifiを切断したいが、仕事上そうもいかず困っている。また公民館などでパスワードなしにwifiがつながるようなことのないよう、配慮してほしい。
6年	楽しい内容ばかりでやめることができない。本来は、両親共働きのために連絡用だったが、ゲーム、動画利用が多い。
6年	決めた約束をなかなか守ってくれない。
6年	持つ子が増えているが持たないといじめを受けるのではと心配です。
6年	持たせたくないが、友人関係を心配し、持たせざるを得ない社会状況に困っている。

中	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅にいる時は食事・睡眠・お風呂以外は、ipodが手放せず、規則正しい生活が出来ないでいること。他人と対面でコミュニケーションすることがもともと苦手なのに、ipodとの時間が益々増えている。これからの時代、インターネットやコンピューターは必要なので、大人の目が届くうちに正しく使う方法を学ばせたい。 ・スタンプだけで文章力が足りない。(すべてを一言にまとめすぎる) ・言葉のキャッチボールが出来ないし、直接話さないからきちんと伝わらない。
中1	依存している
中1	ただの通信手段ではなく、危険が多い。学校でもモラルや危険性を教えて欲しい。子どもには持たせないで、困ったことはない。
中1	・持っている子ども達のやりとりの中で、持っていない子たちの話題が提供されること(持っている子どもの保護者から聞いて驚いた)
中1	学習等でインターネット等を利用して調べてきなさいと教師指示されたとき、子どもは教師の言うことは絶対なので、限定された指示を出されるとそ外に認められずに困ったことになる。調べ物等簡単にできるツールだけでなく図書館の利用等をまず推進してもらえると子どものためにもなるかと思うので柔軟な指示をしていただけるといいなあと。
中1	きまりを作っても守れないことが多く、強制すると反発してますます守りません。自ら使用を制限できるようにならないでしょうか。
中1	ルールは家族の目の届くところで行う。宿題、勉強よりパソコンが優先になっている。親より詳しくなっている。携帯電話はただの連絡手段と教えたい。
中2	・スマホにロックがかけられている。子どもとはいえ、プライバシーもあると思うから強く言えない。
中2	・家庭でルールを決めても守れないことが多い。学校で学ぶ機会を設けていただければ家庭が言うより効果があると思います。
中2	学校の校則に9時以降は使用しない。悪口を書かないなど決める。夜中にラインが来る。
中2	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルタリングをすると、やりたいゲームが出来ないので解除してしまった。フィルタリングのもう少し細かいジャンル分けが出来れば使いやすいと思う。 ・スマホがないとイライラし始めたので、スマホ依存になっては困るので、取り上げて半年たちますが、最近スマホのない生活にもなれたようです。
中2	・スマホ等を持っていないことで仲間はずれになる ・メールで悪口を言う人がいる ・動画やゲームに時間をとられて、静かに時間を過ごすことができない。時間の使い方を他に知らないのか・・・と思うほど。自分らしい使い方を見つけて欲しい
中2	・動画やゲームに時間をとられて、静かに時間を過ごすことができない。時間の使い方を他に知らないのか・・・と思うほど。自分らしい使い方を見つけて欲しい
中2	ラインをしないと、友だちと連絡が取りにくいとっている。用件を伝えて話すことができるようになるため、持たせている。これからのデジタル社会で上手なつきあいが必要と感じたから持たせている。
中3	・ほとんどの親も使っている時代なので、禁止は出来ないと思う。使い方のルールは各家庭の問題だと思いません。「スマホ・ケータイの使用」だけのルールでなく、日頃のルールの中の一つだと思えます。
中3	キッズ携帯なので最初から色々な制約がかかっている。キッズ携帯なのでいじめられている。話題には入れない。固定電話を使わなくなっているので、マナーを知らない。高校では連絡網がラインだと聞いた。問題だと思う。プライバシー・著作権等無頓着になっている。インターネットの怖さを学んでもらいたい。
中3	・家族との会話や食事中に使わないのは当たり前、危険なサイトに入らないのも親子でその都度話せば心配なことではない。頭ごなしに全てダメというのではなく、親が子どものネット社会に少し首を突っ込み理解することが大切なのは。
中3	依存している

中3	家庭内でルールを決めてもなかなか守れず、睡眠時間等生活のリズムが崩れている。試験前でも使っている。メリハリがない。携帯電話は連絡手段。これが我が家のルールです。使用時間が長くなる。就寝時間が遅くなる。父親がゲームをさせるために与えた。時間を決めても、こっそりやっている。
中1 中3	県や国で法律で決めてもらいたい。「小中学生はスマホ禁止。持たせてはいけない。」スマホを持たせていいことは一つもない。交友関係(他の中学校の生徒とラインなどでつながるので、悪いことに巻き込まれるなど)や学力の低下、他人とのコミュニケーションが取れなくなり、この先、大人になって大丈夫なのかとも思う。
中1	ロックなどかかっていると、確認できなかつたりするので、今は平気だけど、勝手に変更されると見られないので心配である。
中1	便利な反面、危険もあることをよく理解させるのは、親の責任である。この学年はラインのいじめがあるとよく聞く。ケータイ、スマホが悪いのではなく、そんなことをする子供の心が心配である。親は気がついていない。誰が助けられるのか。自分の子供は大丈夫か。できるだけコミュニケーションを取っているつもりだが、分からないことだらけである。
中1	オンライン通話で長く話をする事。
中2	起床してすぐに使用している。食事の時も使用するなど常にオンラインゲームが気になっている。勉強で不明な事を辞書を使わずにネットで調べている。現在は取る上げているが、インターネットを利用している時間が長く、生活に支障をきたしている。
中2	持たせてはいないが、持っていない方が、「なんで持ってないの?」という感じになりつつある気がする。連絡手段がライン等になりがちで、話題等も含め、仲間に入れようだ。
中3	睡眠不足や視力低下になっている。親よりも子供の方が操作の仕方をよく知っているので、家族のスマホにゲームが知らないうちに入っていたりして困っている。
中3	どのような動画を観ているか、わからないこと。
中3	勉強がおろそかになること。
中3	つながらないのに、何があっても持って行くこと。
中3	今は困ってはいないが、子供まかせでスマホを持たせ、ラインの中で自分の子供がどのような行動を取っているのか親がチェックすべきである。先生方は知らないが、ひどい事がたくさん起こっている。深刻に考えた方がよい。先生方も親も知らなすぎる。使うときは「親の管理のもと」を条件に。その一言が人を追い込み、罪になる怖さをどこかで教えるべきである。
中3	ネットショッピングで勝手に注文して、事後報告であること。
中1	自分の子どもだけがルールを守っていても、他の子どもがそうでないことがある。
中1	すぐゲームをしたがること。
中1	時間を守らないこと。
中2	大人が理解している以上に子どものほうが情報機器の使用の飲み込みが早く、いろいろなことに活用している。それだけに子どもがトラブルに巻き込まれるリスクを予想しにくい。
中2	大人よりも情報に敏感で、機器の使い方を大人よりも良くわかっている。それがよし悪しだが、将来何かトラブルに巻き込まれなければと、不安が大きい。
中2	子どものほうが知識・情報が早くて、親がついていけない。
中2	依存しています。家にいる間はPCの前から離れられません。その危険性について子ども自身が学べる機会がほしいです。
中3	PCの機種種のパーツが変化・進化が早すぎて、購入対応が大変です。でも必要な時代なのでしっかり理解できるようになってほしいです。

まとめとして

「ネットいじめ」や「ネット依存」をはじめとする、ネット社会が青少年に与える悪影響に対する早急な対策の必要性が叫ばれています。学校も家庭も地域も危機感を感じながら、何かしらの行動を起こさなければならないと考えているはずですが、しかし、それとは裏腹に、ネット社会はますます進化し、大人たちには理解できないような、子どもたちにとって魅力的な情報が日々流されています。

そんな中、ネット利用に関する小中学生の実態を把握し、今後の対策や指導方法を考えることを目的に、富士河口湖町立教育センターでは昨年度と同様、南都留郡学校運営研究会（教頭会）と協力し、「ネット利用に関するアンケート」を実施しました。昨年度は、小学校 5 年生から中学校 2 年生までの児童生徒 1914 人を対象に、今年度は、小学校 5 年生から中学校 3 年生までの保護者のべ約 2000 人を対象に実施しました。

全体的には、今年度の保護者を対象としたアンケートの結果は、昨年度の児童生徒アンケートと同じような傾向が見られました。つまり、多くに保護者は、子どもたちの大まかな様子について把握し、注意を払ったり指導をしたりしているということがわかります。

ただし、目の届かない部分のあることもわかってきました。まずは子どもたちのネット利用にかかる時間の把握です。学年が上がるにつれ自分の部屋において一人で過ごすことが多くなり、実際には保護者が把握しきれていない実態があります。また、ネットショッピングの数については、昨年度の児童生徒アンケートの数が、今年度の保護者アンケートの数の 3 倍にもなっています。

指先一つで買い物をしたり、プリペイドカードを利用するなど、現金を介さない買い物により、子どもたちの金銭感覚が麻痺していく怖さを感じます。

7 月 11 日、南都留郡および富士河口湖町 P T A 連合会は、勝山のさくやホールにおいて、「ネット依存の予防と対応」と題し講演会を開催しました。日本で最初に「ネット依存外来」を設置した久里浜医療センターから講師を招き、現在の状況と対策について学びました。大人たちの知らない世界に子どもたちが足を踏み込み抜け出せなくなってしまう現状があること、治療に大きな労力と時間が必要なこともわかりました。

ますます進化していく「ネット社会」。子どもたちに機器を買い与え一番長い時間を一緒に過ごす保護者や、子どもたちの生活の場である学校、そしてそれを取り巻く地域が「ネット社会」に対する理解を深め、連携していく大切さを痛感します。

このアンケートにご協力いただいた小中学校、集計にご尽力いただいた先生方、そして、取りまとめていただいた南都留郡学校運営研究会の教頭先生方に感謝申し上げます。

